

3 3 . 有用林内植物栽培試験 (2) オオミスミソウ林内栽培試験 (成株移植試験)

桃澤邦夫

〔目的〕

前項(1) ヤマユリ栽培試験に同じ。

その一環として、本州日本海側に自生し、早春の花の少ない時期に色とりどりに開花して林床を彩るキンポウゲ科の多年草であるオオミスミソウに着目し、風土の異なる太平洋側の多摩地区での林内粗放栽培の可否及び条件を探る。

〔方法〕

オオミスミソウは表-1に示すような特徴を持っており、限られた地域ながら落葉広葉樹の林床に比較的大きな群落を作っている。

今回は都内で人工実生繁殖により開花に至った成株を当日の出試験林内の落葉広葉樹二次林の林床に 1.2×1.4mの小試験区域を設定し、'96(H8)年5月7日に30株植栽した。

植栽地の周辺環境をみるため、周囲に10×20mの調査区を設けて植生調査を行った。また、林床の光の状態をつかむため、林の内外の照度計測を月に1回の頻度で行った。さらに、夏季及び翌春の花芽が確認できる冬季に植栽株の葉数、越冬芽の状態を調べた。

〔結果〕

植栽地は海拔225m、斜面方位 N10° W、傾斜約27°の平行斜面中下部である。周辺の林分は高さ 22m、高木層にイヌシデ、アカシデ、ミズキ、亜高木層にイヌシデ、エゴノキ、低木層にモミ、コバノガマズミ、草本層にアセビをそれぞれ主体とする二次林である。その構造及び種組成は図-1及び表-2に示した。

林床での相対照度は6月からの計測値しかないが、図-2のとおり夏季から9月上旬までは5%前後で推移し、以後11月中旬までの間に 30%代後半まで徐々に上昇していた。そして紅黄葉の始まりから急激に上昇し、落葉後 90%程度で落ち着く変化を示した。

植栽後約9ヶ月後の'97(H9)年1月29日の調査結果は表-3に示した。株の状態は、全株の生存が確認された。また、平均の芽数は約 1.2倍になっていた。完全人工栽培下のポット等の容器内では、施肥により芽数が1年の栽培で2倍程度になるが、自然状態の現地では施肥を行っていないこともあり増加が鈍くなっている。

花芽の形成率は平均 86.7%と高率となった。そして、'97(H9)年3月11日には開花が確認された。

図-3に植栽時と約3ヶ月後及び約9ヶ月後の1株当たりの平均着葉数の変化をまとめた。株により元来の着葉数に差があるため幅をもっているが、葉は夏までは健全な状態で保たれている。夏以降冬までに2割程度減少しているが、観察では葉柄は残存している場合がほとんどで、昆虫の食害が原因であると推測される。

今後は林内粗放栽培状態での種子繁殖等について調査していく。

表 - 1 オオミスミソウの特徴

和名	オオミスミソウ (キンポウゲ科 スハマソウ属)
学名	<i>Hepatica nobilis</i> Schreber var. <i>magna</i> (Hiroe) Kitam. <保育社, 原色日本植物図鑑より>
形状	山地の山陰に生える常緑性の多年草。地下茎は斜上し節が多く、節から数本の根をだす。葉は三角状で先端は鈍頭、葉柄 5~10cm, 幅 5~10cmで1株から数枚を生じる。花期は2~5月。花弁はなく、がく片に色がつき花弁のように見える。花色は白, 紫, 紅, 藍など多様。
分布	本州山形県以南の日本海側
その他	<ul style="list-style-type: none"> 日本には近縁種がミスミソウ(本州中部以西, 九州北部), スハマソウ(本州宮城県以南南の主として太平洋側), ケスハマソウ(本州近畿地方以西, 四国)分布する。 自生地では地桜など、園芸的には雪割草と呼ばれ春を告げる花として比較的名有である。 江戸時代に鑑賞価値の高い個体が園芸品種として栽培される「ブーム」の記録がある。 鉢物としての園芸的な栽培, 繁殖方法は確立されている。
本種選定理由	<ul style="list-style-type: none"> 山林を観光資源として活用するために鑑賞価値のある植物が望ましいが条件に合致する。 園芸的に人気のある植物である。・常緑性で株の健全状態、位置を常時把握できる。 多摩地区では開花が早春になると予測され、新たな観光資源となりうる。 種子が風散布でないため、仮にエスケープしても周辺に爆発的に拡散する恐れは少ない。 自然分布からみると当地にはスハマソウが適すると考えられるが、親株の入手が難しい。

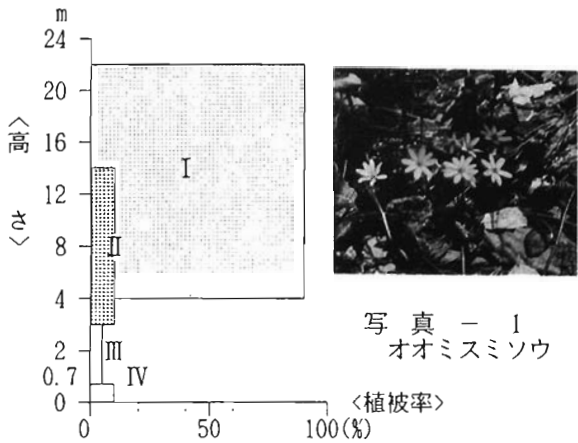


図 - 1 植栽地の林分構造図

表 - 2 植栽地周囲の植生

植生調査区10×20m (オオミスミソウ植栽区 1.2×1.4m)
斜面方位 N20° W, 傾斜約27°, 海拔 225m

I 高木層 DBH=11-28cm	II 亜高木層 DBH=2-9cm
イシデ 25	イシデ 5
アカデ 20	エゴキ 5
ミズキ 20	ヤマザクラ 2
ヤマザクラ 15	ムラサキシバ +
コナラ 10	
クヌギ 10	
ウグイスカグラ 10	IV 草本層
ウリハダカエデ +	アセビ 5
	モミ 1
	ヤマツツジ 1
	ヤブコウジ 1
III 低木層	オオバツバヒゲ 1
モミ 3	イガヤ +
ムラサキシバ 1	シラカシ +
コバノガマズミ 2	アラクシ +
ヒメ(植) +	ヒイラギ +
イヌツゲ 1	ヒサキ +
ヤマツツジ +	オトコヨウゾ +
オトコヨウゾ +	ウグイスカグラ +
ウグイスカグラ +	アハダ +
アハダ +	
	数字: 被度(%)
	+ : 被度1%未満
	オオミスミソウ(植) +

表 - 3 植栽成株の状況

当初(植栽時)比			
植栽株数	生存	平均芽数	平均花芽形成
30	100%	123.3% (42.3)	86.7%

()内は標準偏差

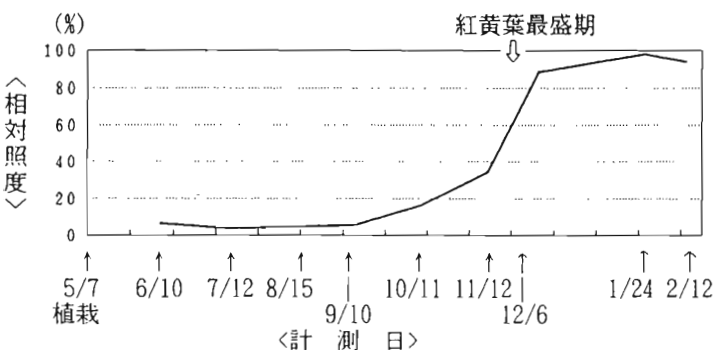


図 - 2 植栽地の林床相対照度変化

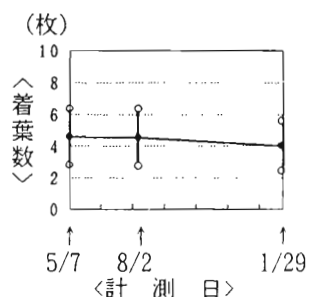


図 - 3 一株当たりの着葉数の変化